

令和4年4月1日

各位

海ごみから革新的な社会を考える会

無焼成技術の紹介

代表 小木曾順務

陶磁器製食器は1,300℃で焼成しているが、  
この置物は、陶磁器原料に機械的な表面処理を施し、粒度を管理し、  
焼成せずに成形されたものです。(無焼成セラミック/名古屋工業大学藤教授)



海ごみの中に陶磁器くずが混ざっていますが、この陶磁器くずは、港湾内の「照明器具用」の素材として活用できる可能性があります。リサイクルポートを整備する折の照明器具として使用できれば、無焼成技術故に、地方に新たな再生ものづくり事業を生みます。廃棄されてきた陶磁器くずといえども、素材として活用できる時代に入ります。この研究会を通じ、全国で造形技術を学ぶ学生さんたちに情報提供することで光ファイバー技術や太陽光技術を繋いだオブジェづくりのアイデアを募集することも可能です。

以上